

宮城県考古学会連絡紙

第82号

2021年6月26日発行

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1

東北大学大学院文学研究科考古学研究室 宮城県考古学会事務局

2021年度宮城県考古学会総会・研究発表会について

5月15日(土)に、白石市中央公民館およびオンライン配信にて、以下の日程で開催しました。会員・会員外あわせて約60名の参加がありました。

【総会】10:30～11:00

佐々木和博会長から開会の挨拶があり、つづいて議長団の選出し、5件の議事が行われました。

議案第1号 2020年度事業報告

議案第2号 2020年度収支決算報告

議案第3号 2021年度事業計画

議案第4号 2021年度収支予算

議案第5号 「大地からの伝言」等活用研究会の特別委員会への改組について

その他

以上の各議案について幹事長および総務幹事から説明がありました。議決は書面決議とし、5月30日まではがきで返信いただき、6月5日に開催されました役員会において集計結果が報告され、議案第1号から第5号まで承認されました。

【研究発表会】13:00～15:00

研究発表4件の口頭発表がありました。総会と同様会場での口頭発表及びオンライン配信を行い、意見交換が行われました。

○口頭発表

「加美町葉菜山麓における石刃・剥片分割行動の一考察」
熊谷亮介氏、鈴木秋平氏

「陸奥国府における造瓦技術の受容と変遷」及川謙作氏
「古代後半期における土師器塚-多賀城周辺の事例から-」
小原駿平氏

「岩手県、宮城県の古代竪穴建物跡の外延溝」山川純一氏

最後に、佐久間光平副会長から閉会の挨拶がありました。

コロナ禍のなか昨年は中止を余儀なくされた研究発表会を開催することができ、情報共有・課題検討の場とすることができました。

開催にあたっては「宮城県考古学会 催事開催に関する新

型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等を策定し、催事スタッフ間で内容を周知し、開催に際しては、参加者の健康状態の把握、ソーシャルディスタンス、換気などを徹底しました。

開催にあたり、情報発信については約1ヶ月前からHP、連絡紙での周知に努めましたが、宮城県に適用されていた「まん延防止等重点措置」により、会の開催の判断が難しく、会員、会員外の参加者にはご不便をおかけしました。周知の方法について検討を行い、会員外、一般向けにもPRしたいと思いません。

【ご意見について】

議案の書面決議の際、返信用はがきいただきましたご意見とそれに対する回答をお知らせいたします。

① オンラインによる総会を継続してほしい。

(回答)可能であればその様にしたいが、必ずしも毎回実施できるとは限らないものと考えています。詳細な理由は、次項をご覧ください。

② オンラインの際の音声改善をお願いしたい。

(回答)今後実施する際には改善します。

③ 学会主催で古本市をして欲しい

(回答)学会として古本を販売するには、古物営業法に基づき「古物商許可」が必要となる可能性があるため、実施することは難しいと判断します。ただし、専門書店の巡回等を要請することは可能ですので、今後のイベント開催時に検討したいと思えます。また、会場によっては本会の事業が営利目的と判断され使用不可や使用費の増額となることもあるため、慎重に検討する必要があるものと考えています。

④ 発掘調査や考古学関連書籍などの情報、コラムなどの企画記事など連絡紙記事内容についての充実

(回答)連絡紙は発行時期がある程度限定されることから、速報性の高い情報については主にホームページを活用したいと考えております。企画記事については、担当幹事の過度な負担とならない範囲で個人情報等に留意しつつ検討したいと思えます。

⑤ 予備費を会費の減額や学生会員の勧誘に用いたらどうか。

(回答)2019年度総会にて、収入と支出に関する詳細を報告し、会費の現状維持が妥当と報告しました。また、会員減少を抑えることを目的とし、勧誘チラシの作成と学生会員の会費を1,000円に減額することとしました(2019年度総会資料参照)。現在も状況は変わっていないことから、現状維持

が妥当と考えます。また、各特別委員会の活動も今後活発化することが想定されるから、そちらの予算としても備えたいと考えます。

2021 年度宮城県考古学会総会・研究発表会開催を振り返って-コロナ禍での開催と今後の課題- 宮城県考古学会 役員会

1. 開始までの経緯

2021 年度宮城県考古学会総会・研究発表会の開催にあたっては、2020 年 12 月に開催予定であった遺跡調査成果発表会の対応が終了した後、2021 年 1 月から毎月の役員会あるいは代表幹事会を開催し、その主な議題として取り上げてきた。昨年度の総会・研究発表会は残念ながら中止としたが、今年度こそは開催するという前提で議論を進めた。

開催にあたっての方針として、以下の 3 点を定めた。①デジタル・デバイド(情報格差・インターネット等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間にもたらされる格差)に留意し、直接参加とオンラインによる参加の二種の方法により開催すること、②会場は 100 名程を収容できる会場とし、直接参加者は事前申し込み制で 50 名とすること、③緊急事態宣言発出等を踏まえ、状況によっては会場への会員等の直接参加は中止とし、オンラインでの配信のみとすること。

また、開催にあたっては本会においてもガイドラインを策定する必要があることから、「宮城県考古学会催事開催に関する新型コロナウイルス対策感染対策ガイドライン」のほか、今回の開催に備えて「宮城県考古学会 2021 年度総会・研究発表大会開催に関する新型コロナウイルス感染症対策」を策定した。

この方針やガイドラインを踏まえ、当初より問題となったのは、会場の確保とオンライン配信に関する技術的問題、状況に応じた的確な実施方法についてである。

2. 会場の確保

方針②に定めたように、規模の大きな会場を確保する必要があったことから、県内で使用できる場所は限られていた。また、準備を始めた当初の時期は、新型コロナウイルス感染者が急増している時期にあたり、その後には宮城県・仙台市緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が相次いで発出されていることから、会場を予約することも不可能な状況が続いていた。また、予約できたとしても、その当時の状況によっては役員等関係者のみによる配信あるいは直前になって完全に中止とする可能性も考えられたことから、柔軟に対処することが必要とされた。そのような諸点を相談した上で、白石市教育委員会のご理解とご協力をいただき、白石市中央公民館をお借りすることができた。

また、事前に会場の様子を把握するため、4 月 24 日に会長、幹事長、企画代表幹事で会場を訪問し、機材や下記通信環境の確認等のほかに新型コロナウイルス感染症対策に関する環境設備について具体的な打ち合わせを行った。

3. オンライン配信に関する技術的問題

オンライン配信は本会にとって初の試みであるので、準備については慎重に行った。まず、基本的な考え方として、方針①

を踏まえ、会場に会員等が参加することを前提としていることから、配信では会場の様子を配信する形態となることを想定した。なお、Zoom 等のみで全員がオンラインで配信するだけであれば、下記の様な準備は必要なく簡単に進められる。

会場の様子を配信する場合、別途ビデオカメラやキャプチャボード等の機材が必要となる。これらの機材でリース(ビデオカメラ、Wi-Fi 機器)できるものはそのようにし、それ以外の機材(ビデオキャプチャ、オーディオ関連等)については学会として購入することも検討した。しかし、それらの機材の保管場所や利用頻度、時間経過に伴う機器類の陳腐化等を考えると学会として購入することは難しいと判断した。もちろんリースも検討したが、検討したところではおおむねプロ用の機材となり割高となることが判明した。そこで、このようにリースできないものに関しては、別途準備することとした。

ライブ配信にあたっては、総会は YouTube、研究発表会は Zoom とした。総会は、昨年度と同様に書面による審議となり質問は葉書でもできることから、当日の質問は会場からのみとし、YouTube による限定配信とした。研究発表会は、一般参加者もおり質問も想定されることから Zoom(1 ヶ月間のみの有償アカウント)を選択した。

また、ソフトウェアに関しては、何種類かのソフトウェアをそれぞれインストールしてテストし、現有のシステムで YouTube、Zoom ともに問題なく利用できるフリーウェアの OBS Studio を選択した。

ネット環境に恵まれている場所での配信については事前に問題ないことは確認したが、会場での実施については不安なところがあることから、前述のように白石市中央公民館にて確認を行った。リースした wifi 機器の電波状況、実験的な配信、ケーブルの長さ等確認、音響設備の確認を行った。このように入念に準備したつもりではあったが、当日はオンラインのマイク的环境が良くないことが判明し、今後の検討事項となった。

このように機器類の準備、それぞれの接続テスト等を今回行ったが、これらの準備、テスト等にはかなりの時間と労力を費やしている。ノートパソコン、メディア機器、ソフトウェアのそれぞれの利用について理解していても、機器類の相性の問題もあり、そう簡単に進まなかった。ただし、近年のオンライン配信に関する裾野が広がっていることにより、機器類・ソフトウェアの種類が豊富かつ安価となり、それらを解説する動画配信も多くあり大変参考になった。

4. 実施方法

直接参加する場合の会場の収容人数の都合から、事前に会員に参加希望を募る必要があった。通常の連絡手段である葉書のやり取りには時間がかかることから、なるべく早めに実施する必要があったが、総会・研究発表会内容の調整等が遅れ、ようやく 4 月 17 日刊行の連絡紙第 81 号と共に返信用の葉書を送付することができた。こちらの都合ではあるが、5 月の連休明けには参加者数を大体確定させる必要があったため、返信葉書の締切を早くに設定してしまい、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけした。

また、会場設定の際に記載したように、新型コロナウイルス

感染症の広がりがどのようになるか確かな予想はできないため、どのようにも対応できるようにフローチャートを作成した。このフローチャートの作成時点では、(1)通常通り開催する、(2a)白石市中央公民館で関係者のみ集まり配信だけする、(2b)白石市中央公民館以外の場所に限られた関係者のみ集まり配信する、(3)三役、代表幹事等数名のみが集まり配信する。という4パターンを想定していた。(2a)～(3)に関しては、実施はできるものの方針①に反することから、なるべくそのような形にならないようにと推移を見守るしかなかった。

これらのうち、どのパターンでも参加希望者にはこまめに連絡する必要があることから、メールや葉書による連絡を随時行ってきた。この点については、参加希望者に不安を与えないように意識的に実施し、問い合わせがあれば即座に返信を行った。結果として、まん延防止等重点措置の解除の時期が不明であったことから、最終的な判断が遅くなってしまった。

5. 今後について

今後、新型コロナウイルス感染症が収束した上で、継続的に同様の内容で実施するにはかなり大変だというのが実感である。まず、本会は規模の大きな学会ではないため、役員は全てボランティアで専従の職員はおらず、それぞれの業務のほかに学会準備に多くの時間を費やすことは難しい。とくに機材の設定やソフトウェアの利用を熟知することなどは、それなりの時間が必要である。大きな学会のように業者に委託することができるのであれば全く問題ないのであるが、多くの地方行政の職員が持ち回りで役員を行っている本会においては、今回のようなオンライン配信の継続的な実施というのは難しいと感じている。

また、本会は地域学会であることもあり、情報通信技術環境に関して様々な条件の方々がいる。学会活動以外においても、昨今の新型コロナウイルスワクチン予約にネットが使えず苦労したという話はよく聞くところである。その様な中では、方針①で上げたデジタル・デバイドの問題に関しては、今後もとくに留意する必要がある。規模の大きい学会では、会員が何らかの機関に属する研究者であることもあり全てをオンライン化することが可能な状況ではあるが、本会の様な地域学会に関しては、その立場を考慮する必要がある。

ただし、遠隔地に住む会員あるいは研究者で通常は直接参加できない場合、オンライン配信は非常に有効的であることは認識している。本会のような地域学会において、どのような会員であっても平等に総会・研究発表会に参加できるような環境をバランス良く構築することは、今後の課題としたい。

博物館・展覧会・イベント等情報

【東北歴史博物館】

●テーマ展示「多賀城の高級食器-緑釉・灰釉・青磁・白磁-」

【会期】 ～7月4日(日)

●テーマ展示「宮城県の土師器-土器から見る生活の変化-」

【会期】 7月6日(火)～12月5日(日)

●館長講座

阿子島香館長が、「東北グローバル考古学-宮城の先史を

再発見-」をテーマに、令和3年度の館長講座を行います。ふるさと東北の遺跡を取り上げながら、世界各地のさまざまな文化と比較し、人類史の中での意義を探っていきます。

第4回 7月24日(土)「氷河時代のハンターたち」

第5回 8月28日(土)「美術と思想の起源」

第6回 9月25日(土)「石器製作のハイテク」

第7回 10月23日(土)「地球温暖化の中で」

第8回 11月27日(土)「縄文への道」

開催日:7月24日～11月27日(各月の第4土曜日)

時間:13:30～15:00

場所:東北歴史博物館3F 講堂

定員:各回145名(事前申込み制、先着順)

費用:無料

【多賀城市教育委員会】

●多賀城南門建設現場見学会

開催日:①7月17日(土)、②8月21日(土)

時間:10:00～12:00、13:30～16:00

場所:多賀城市市川字田屋場(南門復元工事現場)

見学会要件:小学生以下は保護者同伴。事前の予約不要。

会誌『宮城考古学』について

○第24号(2022年5月発行予定)の原稿募集中です!

投稿希望の方は2021年11月30日までに、仮題や予定頁数などを下記アドレスまでお知らせください。応募多数の場合は早めに受付を終了いたします。原稿の締切りは2022年1月31日です。【原稿の種類】①論文(18頁以内)②研究ノート(12頁以内)③展望(12頁以内)④資料紹介(8頁以内)ほか。書式等の詳細は会誌第23号を参照願います。

<連絡先>初鹿野 博之(会誌代表幹事)

E-mail:miyagikoukogaku@gmail.com

○第23号の訂正について

相原淳一・佐藤信行会員の論文英題に誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともに、深くお詫び申し上げます。Reconsideration of "Ōana-Type" Pottery in the Middle of Earliest Jomon Period : about Jaōdou II-Type and Mito-Type Pottery

会費の納入をお願いいたします

会費は一般会員が4,000円、学生会員が1,000円、夫婦会員が5,000円です。未納の方は、お早めにお支払い下さい。

情報・寄稿などをお寄せ下さい!!

考古学に関する情報や寄稿、会員通信等をお寄せ下さい。また、ご意見ご要望もお待ちしております。

本会 Web サイト(<http://www.m-kouko.net/>)では、本会連絡紙のほか、お寄せいただいた情報を随時掲載いたしております。発掘調査情報、学会、イベントなど考古学に関する情報をお寄せください。

<連絡先> 鈴木 啓司(連絡紙代表幹事)

E-mail:info@m-kouko.net(宮城県考古学会)